2025 年度ピアノ調律技能検定　学科試験問題　3 級

真偽問題

正しいものは①、正しくないものは②にマークしなさい。
①　、②以外を塗りつぶすと誤答になります。

問(1)　音名の呼び方で、「ロ」と「H」は同じ音である。

問(2)　古典派音楽の作曲家には、ハイドン、バルトーク、モーツァルト、ベートーヴェン等がいる。

問(3)　ピアノ曲「子犬のワルツ」の作曲者は、ショパンである。

問(4)　コンチェルトの日本語の名称は、協奏曲である。

問(5)　空気中を伝わる音波は、横波である。

問(6)　ファツィオリの生産国は、イタリアである。

問(7)　チューニングピンの材質は、軟鉄である。

問(8)　ピン板によく用いられる樹種に、カエデがある。

問(9)　1A−88C において、C 音の白鍵上面の形状は全て同じである。

問(10)　アップライトピアノのソフトペダルは、音量は小さくなるが弦に当たるハンマーの位置は変わらない。

問(11)　調律に用いる唸りは、ユニゾンの場合は振動数の差である。

問(12)　テーラーの公式では、弦の長さは振動数に反比例する。

問(13)　ピアノのオクターブが伸張される原因は、弦振動の倍音のずれである。

問(14)　49A 付近では、1Hz が約 10 セントに相当する。

問(15)　音叉は、温度により変化するので取扱いに注意する。

問(16)　ネジの増し締めでは、ネジはゆるまないように、力いっぱい締める。

問(17)　ハンマー接近（レットオフ）は、低音では広め、高音では狭めに調整する。

問(18)　鍵盤スティックの際は、最初にバランスホールを調整するとよい。

問(19)　音の止まりが悪い場合は、必ずダンパーフェルトを交換しなければならない。

問(20)　ハンマー接近（レットオフ）は、狭いほど、音量が豊かになる利点がある。

問(21)　断線修理の際、弦を駒に密着させるために、弦をしごく。

問(22)　バットフェルトの接着は、フェルトの上半分に接着剤を塗る。

問(23)　アップライトピアノのハンマーシャンクが折損した場合は、ハンマーは元のものを使用するのが望ましい。

問(24)　グランドピアノのハンマーシャンクローラーの軋み雑音対処は、ローラースキンに黒鉛を塗布するとよい。

問(25)　自動演奏ピアノでは、鍵盤・ペダルを動かすのに、ソレノイド（電磁石）の駆動装置が使われている。

多肢択一（3択）問題

各問から、適切なものを1つ選びなさい。2つ以上選ぶと誤答になります。

問(26)　40Cを楽譜で表すとき、正しいものを1つ選べ。
1. 高音部譜表（ト音記号の楽譜）で第3間
2. 高音部譜表（ト音記号の楽譜）で下第1線
3. 低音部譜表（ヘ音記号の楽譜）で第5線

問(27)　ニ短調の説明として、正しいものを1つ選べ。
1. 調号は、♭が1つである。
2. 同主調は、ヘ長調である。
3. 属音は、G である。

問(28)　音の性質の説明として、正しいものを1つ選べ。
1. 唸りは、回折という性質による。
2. 唸りは、共鳴という性質による。
3. 唸りは、干渉という性質による。

問(29)　ホーキンスのアップライトピアノ特許に関係する年を1つ選べ。
1. 1709年
2. 1800年
3. 1900年

問(30)　ピアノの手入れ・使用環境について、記述内容がもっとも適切なものを選べ。
1. メーカーが推奨する適切な湿度は、およそ 40～65％である。
2. 床暖房がピアノにとって、最適な暖房である。
3. アクリル樹脂製の白鍵の消毒は、アルコールを使用する。

問(31)　弦長について、正しいものを1つ選べ。
1. 振動する弦の長さと音波の波長は、同じ長さとなる。
2. チューニングピンからヒッチピンまでを有効弦長という。
3. 最高音の有効弦長は、およそ5㎝である。

問(32)　響板について、正しいものを1つ選べ。
1. 響板の中央の盛り上がりをクラウンという。
2. 響板に用いられる木材は、比重が大きい樹種を用いる。
3. 響板は板目になるように、木取りする。

問(33)　グランドピアノのソフト（シフト）ペダルについて、正しいものを1つ選べ。
1. 音色は変えられるが、音量は変えられない。
2. ペダルを踏むと同時に鍵盤筬がすぐ動くよう（遊びゼロ）に調整する。
3. シフト量は、突き上げ棒上端のナットで調整する。

問(34)　ピアノの外装に関する次の記述の中から、正しいものを1つ選べ。

1. チッペンデールとは、外装に用いられる樹種の名称である。
2. 芯材には合板が用いられており、無垢材は用いられない。
3. 塗料には化学合成されたもののほか、天然素材のものもある。

問(35)　音律に関する記述として、正しいものを1つ選べ。

1. 純正律の完全5度は、平均律の完全5度より、2セント広い。
2. ミーントーンの主要な長3度は、わずかに唸りが生じる。
3. ピタゴラスコンマは、22セントとなる。

問(36)　中音～高音のオクターブの検査音程に用いる長3度：長10度について、正しいものを1つ選べ。

1. 唸りは、1：1が目安である。
2. 唸りは、1：2が目安である。
3. 唸りは、2：1が目安である。

問(37)　音を半音上げた際の弦の張力について、適切なものを1つ選べ。

1. 張力は、約2倍になる。
2. 張力は、約12％高くなる。
3. 張力は、約1．06倍になる。

問(38)　共通倍音に関する記述として、正しいものを1つ選べ。

1. 37A-44E の共通倍音は、49A 付近である。
2. 37A-44E の共通倍音は、56E 付近である。
3. 37A-44E の共通倍音は、61A 付近である。

問(39)　セント法について、正しいものを1つ選べ。

1. ヘルムホルツにより考案された。
2. 1オクターブは、800セントである。
3. セント法は、対数計算に基づく。

問(40)　ペダルに関する記述として、もっとも適切なものを選べ。

1. ダンパーペダルを正しく調整すると、ペダルのストロークを1/3踏み込んだ位置で、ダンパーが作動するようになる。
2. 一般的なグランドピアノの場合、左のペダルを踏むと、打弦距離が短縮される。
3. ソステヌートペダルを踏み込んでから、打鍵された音は、延音される。

問(41)　カラ直し（ロストモーション）調整について、もっともふさわしいものを選べ。

1. グランドピアノで重要な工程である。
2. ジャック先端とバットスキンの隙間を調整する。
3. レギュレチングボタン（スクリュー）とウイペンヒールクロスの隙間を調整する。

問(42)　グランドピアノのアクションの調整で、工程として関連がもっとも深い組み合わせを選べ。

1. ハンマー戻り（ドロップ）とハンマー接近（レットオフ）
2. 鍵盤の深さ（あがき）とハンマー接近（レットオフ）
3. 鍵盤の深さ（あがき）とレペティションレバースプリング調整

問(43)　1回の打鍵で、ハンマーが2度打ちする場合、その原因と考えられるものを1つ選べ。

1. ハンマーストップ（バックストップ）が、狭すぎる。
2. カラ直し（ロストモーション）の調整が、突き上げ過ぎの状態。
3. 鍵盤の深さ（あがき）が、浅すぎる。

問(44)　ピアノアクションについて、正しいものを1つ選べ。

1. グランドピアノの同音連打の性能は、アップライトピアノの約2倍である。
2. ダンパー止音は、鍵盤の深さを約1/3戻した位置である。
3. 鍵盤の深さ（あがき）は、どのピアノでも10㎜に調整する。

問(45)　弦の番手について、正しいものを1つ選べ。

1. 最高音には、15番手前後が使われる。
2. 張弦の際は、駒上の印字で番手を確かめる。
3. 断線で張弦する際は、半番手から1番手太い弦を張ると良い。

問(46)　断線修理について、もっとも適切なものを1つ選べ。

1. 打ち下ろしは、ピンの孔が1/3見えるようにする。
2. 弦の引き上げは、打ち下ろしの後に行う。
3. チッピングの後に弦しごきを行う。

問(47)　センターピン交換の方法として、正しいものを1つ選べ。

1. スティックの場合、センターピンにペーパー（やすり）を掛けて、トルクを調整する。
2. センターピンと木部の嵌合(かんごう)具合は、抵抗なく挿入できる程度が良い。
3. センターピン交換後、フレンジの走りを点検・修正する。

問(48)　アップライトピアノのアクション部品の貼り替えに際し、全面に接着剤を付けるものを1つ選べ。

1. ダンパーレバークロス
2. バットスキン
3. キャッチャースキン

問(49)　鍵盤修理について、正しいものを1つ選べ。

1. フロントブッシングクロスは、長いほど摩滅に強いので良い。
2. 白鍵上面（アクリル樹脂製）を剥がす時は、アイロンで加熱する。
3. 黒鍵貼り替えで黒鍵上面を剥がす場合、カッターナイフを用いる。

問(50)　消音型ピアノの点検・調整方法として、正しいものを1つ選べ。

1. 消音型のアップライトピアノのダンパーペダル調整は、一般の生ピアノより遊びを大きくする。
2. 調律カーブを電子音に合わせる必要がある。
3. 調律した時は、必ず消音状態で、ヘッドフォンで電子音の発音とペダルの効果を確認する。